309人が新同窓会員に

平成25年度の同窓会入会式が2月28日、母校大体育館で行われた。この日の秋田市は寒さが緩み、母校のうぐいす坂は両端に少し雪が残るもののアスファルトはすっかり乾いて春の兆しを告げる暖かさ。入会式は午前11時半から始まった。大体育館の壁には紅白の幕、ステージ上の演台は校章をあしらった大きな紫紺の同窓会旗で覆われ、会場は晴れやかな雰囲気に包まれた。翌日に卒業式を控え高校生活最後の行事に臨んだ3年生309人は、学生服とセーラー服に身を包んで着席し、これを両側から教職員と同窓会役員・理事が見守った。

挨拶に立った豊口同窓会長は新入会員の加入を心から歓迎すると切り出した後、「明日の卒業は皆さんがこれまで秋高で学んだ成果を輝かしい未来に向けて生かす第一歩となる」と述べた。そのうえで「大学に進学しても一層の努力が肝要であり、学生の本分である勉強を怠ってはいけない。何事も勤勉なくして成就はかなわない」と語った。さらに先輩同窓生が国内はもとより世界で活躍していることに触れ、「これら先輩の活躍は皆さんにとって大きな財産であり、これからの人生に大いに活用してほしい」とはなむけの言葉を贈った。続いて恒例の先輩からの激励があり、社会活動団体SiNG代表の武内伸文氏（平成2卒）が熱い思いを生徒たちに語った（下段に発言要旨）。

新入会員への今年の記念品は秋高オリジナルのUSBメモリと校章入りさくらどら焼き。USBには「おのれを修めて世のためつくす」と校歌の一節がプリントされている。佐野副会長から新入会員を代表して前生徒会副会長の東海林寿人君に手渡された。

最後に吹奏楽部の演奏に合わせて全員で校友会歌を歌い、入会式は正午すぎ幕を閉じた。

激励の言葉要旨

武内 伸文（平成2卒）

大学卒業後、経営コンサルタントを経て英国で持続可能な社会づくりの研究をしていた。8年前に帰郷し、家業の印刷業の傍ら社会活動団体の代表として秋田の地域活性に携わっている。本日は同窓会に入会する諸君に三つの言葉を贈る。一つ目は「大義に基づき行動せよ」。今後、夢を追い求める過程で、時に岐路に立つこともあるかと思う。私の場合、会社を辞して渡英する際がそうであったが、自分の人生で大事にすべきことを問い続け決断した。社会における自分の存在意義を問い、それを軸として自らがなすべきことを判断して欲しい。その問答を繰り返すことで、それぞれのライフワークが見えてくる。「わが生わが世の天職いかに」を問い、「おのれを修めて世のためつくす」を実践して欲しい。

二つ目は「コトダマと汗が未来を創る」。自らの考えを言葉に出すことで、協力者、支援者などが集まってくる。特に思いのこもった言葉には魂が宿り、人を動かす力がある。さらに言葉に加え、率先して汗をかくことも大事である。本日紹介した「わらしべ貯金箱」というチャリティ活動も、アイデアを口にしてから、様々な支援者に支えられ、一緒に汗をかきながら活動を続けている。

三つ目は「同じ時代の同志として精一杯生き抜こう」。秋高の同窓生を同じ時代を生きる同志だと考えて欲しい。各世代の持つ独自の視点が大事。遠慮は要らない。どんどんと社会を動かしていこう。諸先輩からのメッセージを受け、この時代を精一杯生き抜き、次の世代に伝えていく。「先蹤追ひつゝ未来の望みゆたかに健児は其途進む」

諸君と一緒に活躍できる日を楽しみにしている。

6月15日に通常総会開催 3年ぶりに役員改選も

平成26年度の通常総会を下記により開催いたします。総会は年1回開く同窓会の運営と執行に関する最高決定機関です。会員の皆様におかれましては、お仲間同士お誘いあわせのうえ是非ご出席下さいますようご案内申し上げます。

日　　時／平成26年6月15日（日）
　　午後2時～
場　　所／秋田ビューホテル
　　（秋田市中通2-6-1
　　電話018-832-1111）
総　　会／午後2時
議　　題／平成25年度決算報告、平成26年度予算・事業計画、役員改選ほか
記念講演／午後3時30分
　　講師　寄席芸人宮田陽こと
　　齋藤敬氏（昭和62卒）
　　演題　「寄席芸人の生態」
懇 親 会／午後4時40分（会費5,000円）
　　当日、会場でいただきます。
申し込み／ご出席の方は、同封のはがきに必要事項をご記入の上52円切手を貼り、6月5日（木）までに同窓会事務局にお送り下さい。FAX、メールでお申し込みいただいても結構です。

同窓会事務局　FAX. 018-832-9588
　　Eメール　aki-doso@cna.ne.jp